

全校で学力向上をめざす『チーム潮小』の取組

～3つの視点からのアプローチを通して～

紋別市立潮見小学校 学級数17 (校長 長谷 博文)

I 実践テーマの趣旨

本校児童の学力は、全国学力・学習状況調査において全国平均に遠く及ばない状況にあった。令和元年度の全国学力・学習状況調査の結果において、国語は全国平均を14.8ポイント、算数は15.6ポイント下回り、児童の学習内容の定着に課題が見られた。また、本校職員のおよそ半数を経験年数5年以下の若手が占め、新採用教員は毎年3名程度入ってくる状況が続いている。そのため、経験年数が少ない教員が学級担任になっても児童が落ち着いて学習に向かい、主体的・対話的に学ぶことのできる環境を整える必要があった。そこで本校では、児童の実態を踏まえた取組の重点化・教員の指導力の向上・組織的な取組の推進という3つの視点から、学力向上を目指した取組を進めている。

II 実践の概要

1 児童の実態を踏まえた取組の重点化

児童の実態を踏まえ、学力向上に向け、具体的な取組の重点化を図っている。

- ① 全校で統一した学習規律「潮小スタンダード」の徹底
- ② 全学年で、単元テストによる学力の経年変化の分析
(※年度ごとに単元テストの平均点の目標値を設定し、定着の度合いが低い単元は、放課後学習を実施)
- ③ 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの結果を分析し、補充学習を実施
- ④ 進級前に全学年で、当該学年の基礎学力の定着を図るテスト「進級テスト」の実施
- ⑤ 児童の苦手教科・単元を集中して振り返る「潮小短期決戦プラン」の実施
- ⑥ 自主学習コンテストや学校HPで意欲的な自主学習ノートを紹介するなどの家庭学習の充実に向けた取組

2 個人課題設定型の校内研修による教員の指導力の向上

教員の指導力の向上を目的に、昨年度から仮説実証型の研修をやめ、個人課題設定型の研修とし、校内研修の充実を図っている。全教員が個人テーマを決めて、学年を基本とした小グループを構成し、積極的に授業交流や協議を行っている。小グループを基本単位とすることのメリットは機動力にある。短時間で集まって話し合い、短いスパンで改善を繰り返す、授業スキル向上のスパイラルを形成している。

3 組織的な取組の推進

- ① 学力向上の取組の要として、主幹教諭を中心とし、教務部2名と研修部2名で構成された「学力向上対策チーム」を組織し、オホーツク管内学力向上支援事業「オールオホーツクで学力向上を！」のロードマップを主軸に学力向上に向けた具体的な方策を推進している。
- ② 1組担任が社会を、2組担任が理科を担当するなど、高学年でチェンジ型教科担任制を導入している。学年として児童の実態を見取ることができ、学年団として共通理解をもって指導できる。また、各学年に副担任を配属して担任業務の負担軽減を図ることで、より児童に関わる業務に専念できる環境となっている。

III 実践の成果(○)と課題(●)

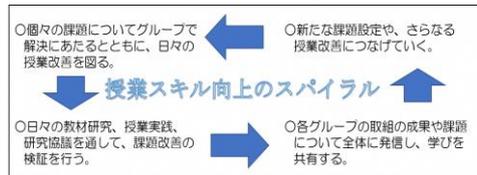
- 3つの視点を重視した取組を行ったことにより、令和3年度の全国学力・学習状況調査では、国語は全国平均を1.3ポイント上回り、算数は全国平均を3.2ポイント下回ったが全国との学力差が縮まってきた。
- 放課後学習や補充学習において、個別や習熟度別に指導する場を設定したことにより、児童に粘り強く学習に取り組む姿勢が身に付き、記述問題の正答率は全国平均を8.6ポイント上回り、国語の無回答率は過年度より大幅に下がった。
- 家庭学習の取組が不十分であることから、学力向上に向けて、今後は家庭での学習を充実させていく必要がある。(R3全国学力・学習状況調査「児童質問紙」における「平日1時間以上勉強する児童」34.2%)

令和3年度 潮小スタンダード	
教育目標 「高め合い 未来に向かう 潮見っ子」	
● しっかり行う ● 大きな心 ● みんなで学ぶ	
授業準備	○授業の準備をしっかりとしましょう。 ○始業のチャームで始められるように盛りましょう。
授業進行	○机の上には、右にえんぴつ、消しゴム、定規など必要なものを置きましょう。 ○机に教科書やノートを置きましょう。 ○お利きの方はぎゅくにいきます。 ○目付、ページなどを置きましょう。 ○かだい、まどめは赤い線まで読みましょう。 ○ノートは、1まず一つの文字・数字を書きましょう。
授業発表	○授業中は、ていねいな言葉を使いましょう。 ○発表をしている人の方を向いて話を聞きましょう。 ○発表する人は、聞いている人の方を向いて発表しましょう。

【潮小スタンダード】

グループ①	指名の工夫 子どもができた、わかったが実感できる授業 児童が授業内容を理解しやすくなる指導言
グループ②	児童が自ら思考に向かうための手立ての工夫 子どもが考えを深められる意見交流の工夫 子どもが動けるスッキリした指示・説明

【個人テーマ】



【授業スキル向上のスパイラル】

「オールオホーツクで学力向上を！」ロードマップ		
＜年度末における「目指す子どもの姿」(ゴールイメージ)＞ ・心と学力を大きく育てよう		
【年度末からの引継ぎの状況】	【第1期：4月～評価】	
取組の重点	取組の重点	取組の重点
①学習環境の充実 ②授業改善に向けた取組 ③家庭との連携	①学習環境の充実 ②授業改善に向けた取組 ③家庭との連携	①学習環境の充実 ②授業改善に向けた取組 ③家庭との連携
具体的取組内容	具体的取組内容	具体的取組内容
①学習規律の徹底【教務：中級】 ②-1 子どもが主体となる授業づくり【研修：加齢】 ②-2 日常授業の改善に貢献する取組【研修：加齢】 ③家庭学習の継続付け【教務：中級】	①学習環境の充実と学習規律の徹底【教務：的働】 ②-1 チャレンジテストの結果を踏まえた学び直し【研修：加齢】 ②-2 教科書の内容を確実に習得させる授業づくり【研修：加齢】 ③家庭学習の継続付け【教務：的働】	①学習環境の充実と学習規律の徹底【教務：的働】 ②-1 チャレンジテストの結果を踏まえた学び直し【研修：加齢】 ②-2 教科書の内容を確実に習得させる授業づくり【研修：加齢】 ③家庭学習の継続付け【教務：的働】

【「オールオホーツクで学力向上を！」のロードマップ】

	国語	算数
本校	66.0	67.0
全道	63.2	67.5
全国	64.7	70.2
本校と全国との差	+1.3	-3.2

【全国学力・学習状況調査結果】

	国語	算数
本校	48.8	48.2
全道	38.3	49.5
全国	40.2	53.0
本校と全国との差	+8.6	-4.8

【記述問題の正答率の平均値】